

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった!」「役に立った!」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷養護学校の取り組みを多くの方に知ってもらうためのおたよりです。

## ~まっちゃんの今月のつぶやき~ 「ことばかけ」という支援

とある研修会で講師の先生から、こんな質問をされました。

**「ことばの指示だけで動ける A さんと、カードを見て動ける B さん。  
どちらがより自立していると思いますか？」**

さて、考えてみてください。自立度が高いのは B さんとのことでした。

サポートツールを持たずに動いている A さんは、一見自立しているように見えますが、「ことばによる指示」というサポートがないと、実は動けないことがわかりました。

つまり、**指示をしてくれる人がいないと、自分で考えて行動を起こすことができなかつた**のです。

個別教育計画の「支援の手立て」の中に「ことばかけ」という支援をよく目にします。もちろん、タイミングが計れず、ことばで指示されることによって行動に移せる場合も多くあり、有効な支援として認められる時もあります。

ですが、指示する人がいなくても、その場の状況にあった行動が起こせたら、もっとよいですよ?

卒業後、進路先の担当の方から「学校ではできると聞いていたのに、できないのですが」と相談を受けたことがあります。

「この人とならできる」から「この人ともできる」「この場所ならできる」から「この場所でもできる」へ。 **相手や場所との関わりの中で、自分で決めて選べる場面が広がっていく**とよいな、と思っています。

## 【補足】

### 「ことばの指示」による支援と「カード」による支援 ～自立の視点から～

このふたつの支援方法について、いくつかの視点から考えてみる必要があります。

- \* 「カード」による支援でしか行動に移せないのか？
  - \* 「ことばの指示」による支援でしか行動に移せないのか？
  - \* 「カード」でも「ことばの指示」でも、どちらの支援でも行動に移せるのか？
  - \* 「カード」や「ことばの指示」がなくても、場面の状況（過去の学習）で行動できるのか？
- そして、その行動は
- \* 自分の意思で決めた上でやっているのか？
- （言われたから、カードで提示されたから、行動しているだけなのか？） などなど

もし「自立」を「**自分の意思で考え**」「**自分の意思で決められること(選べること)**」と捉え  
るとしたら、「ことばの指示」による支援も「カード」による支援も、**その子の意思を尊重し  
て提供されているかどうか**…が大切なポイントになりますね。

「ことばの指示」であれ「カード」であれ**大人がもっていきたい方向に誘導するための手段**  
になっているとしたら、それは果たして「自立にむけた支援」と言えるのかどうか？

そんなことを考えるきっかけにしていただければ、と思います。

## ～お知らせ～

瀬谷養護学校ホームページ内「教材教具集・教育支援だより」のサイトより  
教育支援だよりのバックナンバーをご覧いただくことができます。

